

**国際連合安全保障理事会改革に関する
G 4（日本、ブラジル、ドイツ、インド）外相会合
共同プレスステートメント（仮訳）**

1. 2021年9月22日、G 4の外相である、カルロス・アルベルト・フランコ・フランサ・ブラジル外務大臣、ハイコ・マース・ドイツ連邦共和国外務大臣、スブラマニヤム・ジャイシャンカル・インド外務大臣及び茂木敏充日本国外務大臣は、第76回国連総会の期間にニューヨークで会合を実施した。G 4外相は、発展途上国及び国際連合への主要な貢献国を含む今日の国際社会の現実を反映することにより、安全保障理事会をより正統性、実効性及び代表性のあるものにするために、安全保障理事会を改革する緊急性を強調した。

2. G 4外相は、第75回国連総会の取組を総括し、国連総会の決定75/569に、国連創設75周年記念宣言（A/RES/75/1）で言及のある「安全保障理事会の改革に関する議論に新しい命を吹き込む」との全首脳のコミットメントが反映されたことを歓迎した。この文脈で、G 4外相は、2021年9月10日付の国連事務総長の報告書「我々のコモン・アジェンダ」で示されているように、国連事務総長が必要な支援を提供する用意があることを歓迎した。G 4外相は、政府間交渉（IGN）共同議長が作成した共同議長ペーパーが発展し、加盟国の立場及び提案のアトリビューションが一部付されたことを歓迎した。

3. G 4外相は、国連総会での採択を視野に入れ、単一の文書に基づき、IGNにおいてさらなる遅延無くテキストベース交渉を開始することに向けて取り組む強い決意を表明した。G 4外相は、この目的のため、G 4各国の代表団に対し、第76回国連総会議長及びIGN議長の努力を支援するとともに、決議案の基礎となる単一の統合された文書が作成される方法を特定するよう指示した。G 4外相は、具体的な成果を明確な期限の中で得るために、他の改革志向の国及びグループを含む全ての関心を有する加盟国との対話を強化することを決定した。

4. G 4外相は、安全保障理事会が国際の平和及び安全の維持に対する複雑で進化し続ける課題によりよく対処できるようにし、その任務をより効果的に遂行するため、常任及び非常任の双方のカテゴリーの拡大を通じて安全保障理事会を改革することが不可欠であることを再確認した。この文脈で、G 4外相は、エズウィニ合意及びシルテ宣言に謳われているアフリカ共通ポジション（CAP）への強い支持を表明した。

5. G 4外相は、改革された安全保障理事会において新規常任理事国になることを目指して、相互の立候補支持を改めて表明した。

ニューヨーク
2021年9月22日